

## 北杜市立小中学校適正規模等審議会 会議録

1. 会議名：第6回 北杜市立小中学校適正規模等審議会
2. 日 時：平成20年8月27日（水）午後1時30分～
3. 場 所：北杜市役所 東館特別会議室
4. 出席者：  
（委員）小澤龍一・小泉 徹・堀内 弘・藤原香代子・中澤功允・三井善成  
小尾隆一・小宮山藤雄・清水正之・原 誠・中山英毅・原 堅志  
大柴美香・秋山治雄・小宮山英人・由井峰雄・大島正道・日向 勝  
武井美恵子  
  
（事務局）櫻井教育長・小林教育次長・進藤教育総務課長・伊藤学校教育課長・  
原生涯学習課長・中込学校教育担当リーダー・加久保施設担当リーダ  
ー・日向重喜施設担当・野牛嶋総務担当リーダー・篠原総務担当
5. 議 題 1) 審議会審議経過報告質問事項  
2) 北杜市公立学校施設耐震補強計画（改訂版）  
3) Is 値について
6. 公開・非公開の別：公開
7. 傍聴人の数；1名

— 13時34分開会 —

（教育総務課長）開会に先立ち互礼をしたいと思います。

— 互礼 —

（議長；小澤会長） 前回は北杜市内の3ヶ所の小学校を視察して非常に参考になったのではないかと思います。

北京オリンピックを見て国境を越えて黒人のパワーの姿に驚きました。われわれは、本来生き物として持っている野生の力を近代化という名の元で失ってきたのではないかと思います。

しかしながらこの審議会に於いては、我々は北杜市の環境に合った近代化を考えて行かなければならないと思います。

須玉小学校で聴くことの出来た、あの明るい元気な声を北杜市内全ての小学校から聞こえて来るような北杜市にして行きたい事をお願いして挨拶に代えます。

(議長；小澤会長) 審議に入る前に傍聴希望者1名の入室を許可してもよろしいですか。

(各委員) 異議無し。

—傍聴者1名入室—

(議長；小澤会長) それでは、資料の確認を事務局お願いします。

(事務局) 始めに前回の会議録の確認をお願いします。

次に北杜市立小中学校適正規模等審議会報告会質問事項として、北杜市内の中学校区におきまして順次報告会を開催しておりまして須玉・高根地区の2地区の質問事項が載っています。昨日は長坂地区、本日は大泉地区、28日は小淵沢地区、29日は明野地区、9月1日は武川地区、2日は白州地区を順次巡回していく予定です。全てが終了し、まとめましたなら皆さんにご報告します。

次に、北杜市立公立学校施設耐震補強計画改訂版の説明をします。1頁の平成17年11月に本計画を策定し、平成19年度末における未実施施設は、小学校に於いては3校、屋内運動場については1棟となっております。

国に於いては5月に於いて中国四川省の地震を受けて6月13日付けで「学校耐震化加速に関するお願い」として、文科省が公立学校の耐震化促進を要請しました、18日付で改正された「地震対策特別防止措置法」により国庫補助率が嵩上げされました。

本市に於いてはこの要請を受け、地震発生時における人的被害を防止し、応急避難場所として利用するために耐震化未実施施設を早急に改善することが重要と考え、「北杜市公立学校施設耐震補強計画」を改訂し、計画的に学校施設の耐震化を推進することにしました。審議会からも耐震化についても平行して審議すべきだと言うご意見がありましたので、早急に見直しをしました。

次の2頁の3補強計画で対象となる建築物は昭和56年6月以前に建設された建物です。耐震診断の結果I s値がおおむね0.7未満またはq値がおおむね1.0未満の建物となっております。

対象建築物一覧では、長坂小、日野春小、小泉小、体育館につきましては明野小体育館となっております、この4施設の耐震補強がされていません。後の物は補強がなされているということです。

3頁の建物の優先順位ですが、I s値の低い物からですが、明野小学校(屋体)、長坂小学校がイの部分(耐震性能が非常に劣るもの)です。ロの部分では日野春小学校(耐震性能が劣るもの)、ハの部分では小泉小学校(耐震性能がやや劣るもの)となっております。

4頁ですが、学校の躯体の状況でございますが、明野小学校屋体ですが、耐震診断の結果I s値が0.18と非常に危険な建物と言う事が判明しました。児童

の安全確保はもちろんのこと、地域住民の避難施設であり、地域の社会体育の拠点施設でもあることから早急な対応が必要であります。また、診断結果から耐震補強ではなく改築としなければなりません。ほか、長坂・日野春・小泉の参考のコメントが載っております。

5頁の耐震強度優先順位でございますが、総合的に勘案した結果、次のように事業を推進していくものとします。平成21年度明野小屋内運動場、構造鉄骨1,419㎡となっておりますが他の物は表の通り随時となっておりますが、今審議会の結果によるところも大きいかと思えます。

その下の今後の方針ですが、耐震強度不足の施設については、平成21年度から補強工事に着手し、安心・安全な学校づくりを推進していくが、審議会の答申が出されたときには、これを尊重するとなっておりますので、本審議会の答申で順序が変更になった場合は変更もあり得るということです。

次に、耐震性能判断表について建築士が学校現場で設計図書に基づいて最終的に提出されるのがこの判定表です。長坂小ですが中央にI s値が0.334となっております、次の小泉小学校は0.646ですが0.7以下です。明野小学校ですが、最近実施した結果表ですがI s値は最小0.18となっております、日野春小学校は0.534というように見てください。

つきましては、I s値とは、記載してあるとおりですが、地震力に対する建物の強度、地震力に対する建物の靱性（変形能力、ねばり強さ）が大きいほどこの数値も高くなる、つまり耐震性能が高くなるということです。

I s値の目安としましては、I sが0.3以下だと地震に対して倒壊または崩壊する危険性が高い。0.3以上0.6以下では地震に対して倒壊または崩壊する危険性がある。0.6以上は地震に対して倒壊または崩壊する危険性が低いとされています。文科省では、公立学校施設の耐震改修の補助要件として、地震時の児童生徒の安全性、災害直後の避難場所としての機能性を考慮し、補強後のI s値がおおむね0.7を超えることとされております。耐震、未耐震の目安がI s値0.7となっております。

もう一つ、初回にお配りしている物と同じですが、北杜市全図に市内小中学校が記載してある物と、平成19年度から29年度までの児童・生徒数及びグラフで表している物でございます。以上で資料の確認と説明を終わります。

（議長；小澤会長）I s値は震度5を基準にした物ですね。

（事務局）I s値は阪神・淡路大震災後基準化された物として震度6以上を基準としています。

（委員）夕べの長坂の様子を聴かせてもらえませんか。

（事務局）長坂中のランチルームで会をしましたが50人くらいでした。

やはり、耐震補強の未施行が多いので、明日来るかもしれないので耐震補強を早急に出来ないかというご意見が多かった。逆に中には審議会で答申をとというご意見もありました。

（議長；小澤会長）前回の会議の中でも、長坂の耐震補強は早急にとというご意見が

出ましたが、委員のご意見が年度途中でもまとまれば、早急なる対応が出来るようですが、補助期間はいつまでですか。

(事務局) 5年が繰り上がって23年までは嵩上げするようです。

長坂には3つの未耐震小学校があるので、お互い牽制するような所も見受けられました。ほとんど耐震強化の意見が多かったです。今日長坂の方よりの電話で3つのご意見を述べられ、長坂についてはいずれ長中に通うのだから、長中の付近に統合小学校を持ってきてはとのご意見。次に、各旧村単位の地区境の行政区も北杜市は1つになったのだから、旧村単位を超えて考えてみたら如何ですかというご意見。さらには、統合を早く進めて欲しい、耐震も早く進めて欲しい。との電話を頂きましたので、審議会の方で具体的な案を示して、長坂は進めていかないとならないのかなと言う気がしました。

(議長;小澤会長) 長坂小学校と明野小の屋内運動場は早急に耐震補強をしなければならぬと感じますが、委員の皆様は如何ですか。

(委員) 同感です。

(委員) 耐震と適正配置が絡んでいるようですが、どうしたらよいでしょうか。

(議長;小澤会長) 耐震の問題は前々回から取り上げていますので、耐震問題の緊急性を頭に入れながら、適正配置・通学区域を議論していくということかと思えます。

(委員) 耐震については、視察もした中で危険だと判っていながら放置したと思われるかねないので、危険だと判っていながら放置した、そう言うことは問われるのでしょうか。

(議長;小澤会長) 危険だと知っていてそれを放置した責任は、それに関与した人は問われると思えます。

(委員) 明野は小学校の体育館ということですから、早急に耐震措置をして頂きたい。

(委員) 長坂については、10年後になれば4つの小学校の規模がちょうど我々が議論している規模となるようですので、我々が長坂を1つにしたら如何ですかと提案しても良いのではないのでしょうか。

明野地区については、例ですが明野中学校が少なくなって須玉中と統合するような事になれば、明野中を小学校として運営することも出来るのではないか。

いずれにせよその2つの施設については、早い内に結論を出して、21年度予算に間に合うようにすべきだと思います。

(委員) 地震は待つてはくれないと思えますので、答申の時期は決まっていますが、是非この問題は早急に解決しなければならないと思えます。

(議長;小澤会長) 21年3月の答申といえども、21年度予算は11月頃までに大枠で決まっていなくて間に合わないと思えます。是非予算化して頂くよう中間答申したいのですが、事務局の方では如何ですか。

(事務局) 6月の議会には先ほどの3つの小学校と体育館の報告をIs値を踏まえて議会にご説明しました。そのときに明野小の体育館については、様々な用

途となっておりますので、明野小が統廃合されても、改築の必要性を市側から提案しましたので、この9月の議会に補正予算として計上しようと考えています。

長坂小学校については、裏校舎のI s値が特に低いと言うことで、児童の日常の学習場所を前校舎にしようと言うことで、夏休み中に先生の協力を得て移転が完了しました。全ての児童の教室が全て前校舎になりました。前校舎のI s値は0.6程度ありますので裏校舎より若干安全かなと思いますが、地震の程度に選りましては、他の小学校同様安心とは言えませんが、そのような措置をしました。また長坂小学校については補強ではなく改築となります、そうなりますと多額の費用がかかりますので、長坂地域の方に方向付けを審議会として提案して頂くよう事務局としては要望します。

(議長；小澤会長) 明野小の体育館については、補正予算で執行するとのことですので。

小学校の問題は適正規模・通学区域であります。だからといってそれを放置するわけにはいきません。少なくとも21年度予算には改築なりの施策を練り上げたいと思います。

(委員) 長坂小の耐震性能判定表の中で、補強工事267,184千円と有りますが、この金額で改築ではなくて補強工事が出来るということでしょうか。

(事務局) このデータは1997年の10年前のデータであり現在での補強工事では、耐震が追いつきませんので改築せざるを得ないということです。

耐震補強計画の3頁をご覧くださいますと、平成18年度に実施した耐力度調査では長坂小は耐力度3,929点となっており、5,000点を大きく下回っていますので、改築が必要な建物となっています。

(議長；小澤会長) 資料の説明・質疑が終わりましたので、これから適正配置について審議したいと思います。

(委員) これからの議論の方法ですが、長坂を集中審議し中間答申として長坂地区の方に提示して、その後最終答申を出すようなやり方をとっても良いのではないですか。

(議長；小澤会長) 耐震の問題が出てきましたから、今のご意見ももっともだと思えますけれども、私個人の意見としては、北杜市全体のご意見を決めてから。各論より総論を先に出した方がよいと思いますが。

(委員) それでも結構だと思います。先ず審議会の中間答申を出して、各地域の方にフィードバックして頂くプロセスのお約束をお願いします。

(委員) 1つ確認させて頂きたいのですが、北杜市には学校選択制があるのでしょうか。

(事務局) 北杜市におきましては、通学区域によって学校が決まってくるので、学校選択制はございません。ただ何らかの理由によって区域外通学を希望するならば、関係者と協議した上で区域外通学も可能です。

(委員) 本日の資料の中で「学区を人数とか、通学だけで考えて良いのか」と

いう質問がありますが、この方もおそらく学校選択制を考えているのかなと思われるのですが、学校選択制は出来ないのでしょうか。

(議長；小澤会長) これは学校基本法に準拠してしまっていて、北杜市だけの問題では有りませんので、御理解をお願いします。事務局良いですね。

(事務局) それと、この方は質問内容が簡単になってしまっていますが、小倉の中に3つの地区があって、その中の1つの地区が2つに分散されてしまった実例を挙げて言った質問でしたので御理解をお願いします。

(委員) 昭和28年に政令でそのことが定められまして、1997年規制改革がありまして、学校の通学区域の見直しがありました。前に私が提出しました、広島県の尾道市の答申を見て頂くと、中学校区の見直しについての市民アンケートの結果で、中学校区は今のままで良いが23.1%、積極的な意見として「中学校区は柔軟に対応し替えて良い」が39.4%、「やむおえない」が27.5%「やむおえない事情を勘案すべきだ」が8.1%となっております。やむおえない事情を勘案して実施しているのは県であり、北杜市であるわけですが、具体的に北杜市のアンケートが無いのですが、おおよそ市でも中学校区は柔軟に対応し替えても良いのではないかと考えている人が多いのではないかと思います。

たとえば小泉小と小淵沢小が統合するような場合が出てくるとかと思いますが、本来長坂中学校に通わなければならない生徒が、小淵沢中学に行きたい子が出てくる場合があると思いますが、そのようなときに法律上出来ませんと言えるのかどうか。

(議長；小澤会長) 旧村単位で考えれば、そう言うことも出てくるかと思いますが、合併し北杜市の教育委員会となってその枠組みの中で議論をしていけば、自ずと弾力的な通学区域が出てくるのでは無からうか。そのときに旧村で持っている文化力をどういう風に配慮していくかの問題を、委員さんの知恵を拝借しなければならないと考えます。

(委員) どういう形を取っても、不平や不満というのが出てくると思います、それを前提として学校区域の見直しは出来ないと思うわけです。私たちは今の現状で、たとえば長坂地区の方に(耐震は別にしても)提案していくしかないと思います。昭和の合併の時も白州から小淵沢へ行った人もいました。そう言う事が起きうる可能性があると思いますが、今ここで論議する必要はないと思います。ですから、今問題になっているのは長坂ですからここから切り込んでいく事によってどんな不満が出てくるか、判ってくるのではないのでしょうか。

(委員) 私は小学校、中学校を別にして審議していった方がよいと考えますが如何でしょうか。

(議長；小澤会長) 今、委員が提案して下さったこと如何でしょうか。

(委員) 旧村単位でやっていくなら小学校の場合、高根・長坂はその単位で成りたっている、問題は他の地区でして出来れば小中分けて、白州地区等は単純に人口で割り振りをした中で議論しては如何でしょうか。出来れば人口で区切

って作ってもらえれば、そこから議論していきたいと考えます。

(委員) 以前頂いた資料をいろんな角度で見ましたが、即 妙案とは行きませんでした。これだけ南北・高低がある地形の中で考えてみましたが、地図には出ていない旧町村意識が一番壁になると思いました。吸収云々という感情論に行ってしまうので、北杜市になったのですから、山谷を見つつ新たな学区を緩やかに作っていくその中に学校があるような形とそれを議論していったらどうでしょうか。

(委員) 小淵沢の具体的なことを申しますと、長坂地区の児童が長坂小にかよるのは良いが松向地区が清春小学校区と一緒にになるとかでは地域エゴがあります。また、耐震・統廃合・改築となると財源があるのかどうかという問題があります。今ここで各論まで全部一緒に解決できるとは思いません。段階的に複数の学校があるところから考えて行けば良いと考えます。耐震の問題は市・教育委員会に考えてもらって、もう少し段階的に考えて行ければ判りやすいような気がします。

(議長；小澤会長) 各論ではなく、北杜市の総論と言うことでありましょう。いよいよ具体的な時になったら、各論に入れるような骨格のものであろうと思うわけで、会長を承ったと思っています。

(委員) この審議会で2年後5年後を見据えて段階的に答申を出すべきなのか、あるいは、そうでなければ、段階的に長坂から、あるいは白州からで良いのか、10年後、15年後をどこに持って行くのかを提案して、後のことは次の段階でというスタンスで行くのか、確認したいと思います。

(事務局) その点については初回の資料12P(2)に計画期間で記載してあります、平成19年度から平成28年度の10年間とし、計画期間を3年ごとに前期・中期・後期の3期に分けます。前期3年間については具体的な編成スケジュールを明らかにする。これが19年から21年と考えています。再編とは骨格を作ると言うことであります、この答申によって具体的な統廃合を考えて頂きます。中期後期については、その優先順位に於いて統廃合を進めていく平成28年度までは数校の学校にしたいとお願いしているところでございます。

(議長；小澤会長) やはり、通学区域まではこの審議会で議論しなければならないと承っております。

(委員) 私は小学校と中学校は分けた方が良いと思います。やはり中学校はその地域の拠点であると考えますし、小学校は体力的にということも考えていかなければならないし、新たな学校を作るのはちょっと大変かなと思うわけですが、市の健全財政を考えると今ある学校を利用して、名前を変えて利用していった方が良いだろうと思います。

中学校ですが、私この前アメリカへ行ってきました、そこでは1軒1軒が100疔も150疔も離れています、すべてスクールバスでした。

北杜市も適正配置を考えていますが、アメリカに比べればたいしたこと無いなと思いました。むしろ小学生の方が体力的にということも考え無ければなら

ないと思います。

(委員) 今のお考えは小学校を残すということですか。

(委員) そうです。できましたら。

(議長；小澤会長) そのことについてはまた後で議論して頂くとして、それでは適正配置については小学校を先にして、中学校を後にするという事でよろしいでしょうか。

(各委員) 了承

#### —休憩—

(議長；小澤会長) 再開の前に、私は今映画「白磁の人」の日韓の事務局をしており、それなりの結果をもう少ししたら出せると思います。その過程の中で、浅川巧は皆さんご存知だと思いますが、彼らを生み出したこの地域のこともそれなりに勉強しました。明治9年の合併があった日本でこの地域は全国でも最も小学校の児童がいた地域です。そして明治24年に旧6ヶ村（甲、秋田、日野春、小泉、大泉、清春）が一緒になりまして高等小学校を、現在の秋田小学校に「秋田高等小学校」を作りました。

そこに集まった児童がものすごい方がおられて、日野原先生等が居られて浅川巧もいました。

明治36年に法律が変わり各地域に学校を作っても良いとなると、旧村単位に次々に学校が建ちました。私は平成の合併の時代には、明治時代のように弾力性を持った方向に行くと思います。

(委員) 小学校の場合には北杜市の地形を考慮し、多少の大小はあっても児童のためになる統廃合を考えて行きたいと思います。

(議長；小澤会長) 地形は考えていると思います、北杜市は逸見筋と武川筋と塩川筋とに大きく分ける事が出来ると思います。須玉に上村という地名がありますが、これは村上市を滅ぼした家来を連れてきてこの地域を守らした。そんな話しも聞いたことがあります。そのくらい地域には歴史があると感じています。

(委員) 小学校単位で決めますとのことですが、今の小学校をどこにするかと言うことより、小さい地域をどこの学校区域にするかということを考えて方が選りベターかなと思います。

(委員) 小学生には小さい子供達も沢山いますので、全ての人が合意をして出発するのは無理であろうということは理解できるわけですが、小学校を統廃合しようとするときに、人数だけを基準にしては行けないと思います。

柱を立てて、地域の交流、行事、慣習などを考慮した上での統廃合ならば、更に合意が得られるのではないかと思います。

(委員) 今まで頂いた地図は、漠然とした物なので統廃合は難しいなと思いました。人口とか、地形で分けるのも良いのかなとも考えています。

(委員) 私は北杜市の地形が判っていませんでした。この夏休み子供と一緒に



色々な小学校を見ました、平らな所と山や谷の所との違いや、人口の多少も感じました。歴史も清里では開拓とかポールラッシュとかも勉強しているんですが、他の学校でも独自に特色を出されていると思います。保護者側は、新しいことに対しては必ず不平・不満を言います。合併したときもありました。

長い目で見れば、理解して頂けると思うので、地形的、人口的に考えていくのも私の中ではあります。

(委員) どちらに自分の意見を持って行けば良いのかなと悩んでいますが、児童数が確実に減ることは判っていますので、何らかの手だてをしなければならぬことは、私も皆さんも重々御承知だと思います。

幸いにも同時進行で区長会・PTAの意見がありますので、全ての説明会が終り意見集約が出来たなら示して頂き、次回からで如何でしょうか。

(委員) どっちにしたらいいか判らない、迷っている方が多いと思います。単純に適正規模で配置する意見と、旧町村単位を中心に配置する意見に分かれていますので、単純に配置するシミュレーションと旧町村体制のシミュレーションを出してみても如何でしょうか。

(小泉副会長) 出された物はそれを優先に考えてしまう傾向がありますので、良い考えが浮かばない危惧もありますが、保護者会の心配事に1つ1つ答えていくことが重要なのではないかなと思います。

学校は地域の拠点ですというご意見がありますが、拠点ですという割には会合等に出てこない方が大勢います。人間関係が昔ほどになく、薄れてきて来ていると感じています。

まとまっていらないのですが、色々な方向から見るのがよいと思います。

(委員) 具体的に意見を出したいと思います、増富小学校は5～6年で決まってくると思います。残り高根と長坂で4校ずつですが2校ぐらいに絞れないでしょうか。後は現状のままですということを提案します。

(議長; 小澤会長) 次回に具体的な名称等を審議したいので、御理解ください。適正規模の人数を基本にした配置と、北杜市の歴史・文化・地理的条件を考えた配置とを重点的に考えて行かなければならないと思います。

県立文学館での道祖神祭りで、圧巻だったのが下神取の道祖神でした。これは私達や武川筋にはない伝統文化だと思いますので、これをなくすような統廃合は無いだらうと思います。我々の先祖が培ってきた物を守りながら、統廃合を考えていくなれば、適正規模の人数を基本にした配置と、北杜市歴史・文化・地理的条件を考えた配置とを重点的に考えて行かなければならないと思います。

(委員) 会長の意見に賛成なのですが、2極化すると思います。新しい学区を作るという考え方と、旧町村を中心にして行くと言う考え方ですが。北杜市に限らずどこでもそうです。個人的には自分の地域には自分の小学校を残して欲しいですが、10年後20年後を見たときにそれで成り立っていくのかを考えたとき、新しい核づくりが必要だと思います。

尾道市の例を参考にしますと、「現在の通学区域制度を尊重しながら、適正規

模が確保された小・中学校の適正配置を前提とする通学区域の見直しが望まれる。ただし、その場合小・中学校を取り巻く諸条件に配慮するものとする」、最終的にはここに落ち着くのかなと思ひ参考としてください。

(委員) 当然そう言う問題が起きてくる。本当は6.3制を改善しなくてはと思うが、ここではやめます。中学校問題の時当然出てきます。

(委員) 仮に今の小学校がそのまま残るとなったら、保護者の方はきっとほっとすると思います。小さい学校の方がきめ細かいし、学校も近いし良かったと思うのではないのでしょうか。

適正規模で言う20人をなかなか理解できないではないのでしょうか、子供達は有る程度の人数がいた方が環境として良いのですよと説明しても、なかなか理解できないというのが現実ではないのでは無いのでしょうか。

これからは私たちの意見と、北杜市民の意見を合致させていくことが大事じゃないかと思ひます。

(委員) 前回まで私たちは適正規模とはなんぞやで審議してきて、具体的な数値を決めてきました。次に我々は何を提示しなければならない段階に入ってきています。私の人口割の地図を作ってみてくれないかと言うことは、当然その後歴史・文化・地形等の議論が成されるはずで、単純でかまわないから人口で落とした地図を、事務局の方で作ってもらいたい。現在の人口でと10年後の人口で落としてもらいたい。

(委員) 北杜市も高齢化が進んでいるなか、なかなか先の人口は読めないのではないか。

(委員) 我々の審議自体も10年後先を読んで審議していると思うのですが。

(委員) ここに29年度の推計人口があるわけですから、それで十分じゃないですか。それで北杜市の10年後を推測していると言うことではないのですか。

(議長;小澤会長) 29年度の学校別生徒数と、各学校の通学距離等のデータはそろっていますが、適正規模は出来たわけですから、この地域はこのラインはである程度まとまると言うようなデータを用意してもらって、今までのデータと比べたりして、シミュレーションが出来るのではないか、そうすることによって重なり合う部分と、はずれる部分が出てきますので、それを弾力的にまとめるかが重要ではないかと思ひます。事務局そのデータの作成は可能ですか。

(事務局) 作業部会が立ち上げてございまして、色々な資料はその職員が作っている物です。あいだに議会などがあるわけですが、適正規模と地形的な要素をミックスした形で平成19年版と、確実な平成26年版を用意して出来次第送付します、また各学校区の報告会の意見・アンケート等も送付させていただきます。

(議長;小澤会長) 大変な作業かと思ひますが、是非よろしくお願ひします。

(委員) このシミュレーションを外に出しますと、それが一人歩きしてしまいますので、この審議会の中だけで議論するように対外的には出さない方がよいと考えます。

(委員) 要望と質問があります、質問ですが過日8月上旬のサンニチ新聞に中

学生の不登校の率が山梨県はワースト1という記事が載って言いましたが、3、67%が平均ということですが、北杜市の場合はどうでしょうか。

それと、ホームページに第1回目と2回目の議事録がないのですが、友人からその議事録が見たい要望がありました。その2点ですが。

(委員) 1回目と2回目は前の基準だから公開出来ないのだと思いますが、ここで第1回目も2回目も公開しても良いのではないかとお諮りしても良いのではないのでしょうか。

(事務局) 不登校率につきましては今資料がございませんので次回にして頂きたいと思います。そして議事録のホームページの公開ですが、1、2回は教育委員会の基準でございました、4月第3回からは北杜市の基準になりましたので、4月から公開したわけですが、委員の皆様が公開してもよろしいと言うことであれば公開できます。

(議長;小澤会長) この審議会としては、全体を知ってもらいたいと言うことで、委員さん方意義ございませんね。

(各委員) 異議無し。

(議長;小澤会長) 時間も来ましたので、次回の日程を事務局の方からお願いします

(事務局) 11月は選挙が予定されておりますので、1ヶ月繰り上げてまして10月23日(木)午後1時30分からでは如何でしょうか。

(事務局) 須玉・高根のPTAのご意見がありますが、我々必ず審議委員にお伝えしますと行ってきましたので、是非一度ご一読して頂いて参考にして頂きたいと思います。他の学校区につきましても終わり次第、資料として配布したいと考えていますのでよろしくお願ひします。

(委員) 事務局へのお願いですけれども、このPTAのご意見に事務局でどう答えたかを知りたいのですが。ちょっとしたコメントでもかまいませんので次回からお願いできないでしょうか。

(事務局) じつは、コメントも出来ていたんですが、コメントが欲しいとあれば用意いたします。

(議長;小澤会長) 事務局は大変だと思いますが、PTAとこの審議会また事務局との意見すりあわせに必要ですので、是非送付して頂きたいと思います。

(小泉;副会長) それでは皆様ご苦労様でした。第6回という事でいよいよ佳境に入ってきました、僕の頭の中も揺らめいていまして、2極化ならその方が簡単だなと思ったりしますが、先ほど会長が言ったように、子供達のどのような力を引き出すのかと言うような教育、それぞれの子供達が本当に良い教育を受けられる環境を作っていくという原点に戻って行けたらなと思います。

いずれ、個人感情も入ってくることも避けられないので、原点に戻って審議して頂きたいと思います。

人は出会いで磨かれるとも思いますので、出会いが重要になってきて良いのかなとも思っています。

それではこれで、第6回北杜市立小中学校適正規模等審議会を終わります。

—互礼—

—16時04分終了—

上記は本日の会議の大要である。

平成20年8月27日

署名委員 \_\_\_\_\_

署名委員 \_\_\_\_\_